

会 社 名 株式会社シャルレ
 代表者名 代表執行役社長 林 勝哉
 (コード番号 9885 大証第二部)
 問合せ先 IR担当執行役 小田 義高
 TEL (078)792-7431

業績予想の修正に関するお知らせ

当社において、平成20年8月12日に公表いたしました連結業績予想と個別業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成21年3月期第2四半期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	13,100	950	1,020	910	円 銭 46.95
今回修正予想 (B)	12,900	1,380	1,440	1,130	58.31
増減額 (B-A)	△200	430	420	220	—
増減率	△1.5	45.3	41.2	24.2	—
前中間期実績	26,654	1,068	1,232	△2,247	△115.98

2. 平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	28,100	1,900	2,030	2,600	円 銭 134.16
今回修正予想 (B)	27,700	2,800	2,900	2,100	108.36
増減額 (B-A)	△400	900	870	△500	—
増減率	△1.4	47.4	42.9	△19.2	—
前期実績	46,363	2,548	2,809	△1,971	△101.74

3. 平成21年3月期第2四半期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	890	540	600	850	円 銭 43.86
今回修正予想 (B)	940	580	590	670	34.57
増減額 (B-A)	50	40	△10	△180	—
増減率	5.6	7.4	△1.7	△21.2	—
前中間期実績	1,140	670	777	△1,682	△86.81

(注) 純粋持株会社である旧テン・アローズの予想数値であります。

4. 平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	15,780	1,680	1,750	3,830	円 銭 197.62
今回修正予想 (B)	15,500	2,170	2,100	3,100	159.96
増減額 (B - A)	△280	490	350	△730	—
増減率	△1.8	29.2	20.0	△19.1	—
前期実績	1,653	802	951	△2,023	△104.39

(注) 第2四半期までは、純粋持株会社である旧テン・アローズの予想数値によるものであります。

5. 修正の理由

(1) 連結業績予想の修正の理由

第2四半期

当グループにおきましては、当期より、生き残りをかけての抜本的な事業構造改革を行うべく、レディースインナー等卸売事業における新たな戦略の実行、その他事業における新事業計画の実行を進めてまいりました。

しかしながら、当上期におきましては、レディースインナー等卸売事業において、これらの戦略や新しい施策の進捗が、社内の人材やノウハウの不足による推進力の弱さとビジネスパートナーである代理店との実施方法の調整に時間を要していることから、当初計画より遅延しております。そのため、一部の戦略的な投資予算や先行経費を投入することができず、これらの費用が縮小、あるいは支出時期が持ち越されたことと、在庫ロスの発生が抑制できたことなどから、当上期の営業利益、経常利益については、一時的に当初計画を上回る見込みとなるため、営業利益は1,380百万円、経常利益は1,440百万円、四半期純利益は1,130百万円に修正いたします。

一方で、当グループの中心事業であるレディースインナー等卸売事業の売上は、当上期において、12,860百万円で、前年同期比11.8%の減少となる見込みです。これは過去11年で年平均マイナス5.6%の売上減少トレンドと比べても大きな落ち込みであることから、現在進めております事業構造改革を迅速に推進し、企業価値向上を図ってまいります所存です。

通 期

売上高につきましては、第2四半期までの前年同期比の落ち込みを、第3四半期以降では、代理店、特約店向けのキャンペーンの実施や売上対策としての追加的な新商品の投入により、前年並みに回復させる予定ではありますが、当初計画よりも若干減少する見込みで、予想を27,700百万円に修正いたします。

上記の第2四半期の事業構造改革の進捗状況のとおり、当下期においても、戦略的な投資予算や経費の投入が進まず、これらの費用が縮小、あるいは支出時期が持ち越されたこととなることにより、当事業年度の営業利益、経常利益については、一時的に当初計画を上回る見込みとなるため、営業利益は2,800百万円、経常利益は2,900百万円に修正いたします。

また、平成20年10月1日付の当社の事業持株会社への移行による連結業績への影響額として法人税等調整額△1,156百万円を計上する予定でしたが、上記のとおり事業構造改革が遅延したため、税効果の計算を見直し、法人税等調整額△16百万円の計上に修正する見通しとなりましたので、当期純利益は2,100百万円に修正いたします。

(2) 個別業績予想の修正の理由

第2四半期

特別損失として、株式会社トランスメソッドの子会社株式評価減104百万円を計上したことなどにより、四半期純利益は670百万円に修正いたします。

通 期

第3四半期より事業持株会社になりレディースインナー等卸売事業の業績を計上いたしますが、売上高につきましては、上記の連結業績予想に記載の理由により、当初計画よりも若干減少し、15,500百万円を見込んでおります。

利益面では、上記の連結業績予想に記載のとおり、レディースインナー等卸売事業の事業構造改革の遅れによる先行的な経費等の縮小や翌期以降への持ち越しと在庫ロスの発生の抑制により、営業利益は2,170百万円、経常利益は2,100百万円に修正いたします。また、法人税等調整額の修正により、当期純利益は3,100百万円に修正いたします。

(注)上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想と異なる場合があります。

以 上